

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイリスクラブ玉造		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 1日		～ 2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人一人に寄り添い、児童の発達段階や現状の課題に応じて、レクリエーション活動の内容・ねらいを決めている。	指導員一人一人に対する児童の人数が少ない為、危険性がないかを考えながら動くことができています。	場面や年齢に応じた言葉かけの選択を最適化する。また、児童の様子を見て、情緒を考えながら言葉かけを行えるようにする。
2	レクリエーション目標カレンダーを制作し、毎日活動内容やねらいが重複しないようにしている。また、休日はねらいを2つ設けて、活動内容の幅をひろげている。	レクリエーション目標カレンダーに沿った、プログラムの作成を毎日行っている。指導員一人一人が個別支援計画の目標や日々の様子をもとに毎日の目標を考えている。	提携発達の発達の流れを理解し、児童の発達レベルに応じた目標を設定する。
3	保育士・言語聴覚士・教師等の資格を持った、指導員がいる。その資格を生かして児童と関わっている。	保育士・教師・言語聴覚士等の資格を持つ専門的意見を指導員間で話し合い、伝えあっている。	月1回の事業所での会議や朝礼・終礼での共有になっている為、情緒共有の場や時間をもう少し設ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団療育において、児童発達支援の利用者の割合が多い為、放課後等デイサービスの児童と一緒に取り組む活動が少ない	利用者の大半が児童発達支援である。また、レクリエーション活動では児童発達支援の利用者と活動を分けることも多く、異年齢で取り組む時間がすくじ。	他事業所の取り組みを参考に。どちらの利用者も興味関心が向く活動を立案し、一緒に取り組むことができる時間を増やす。利用者の課題や特性に合わせて、ペア組なども行い異年齢だからこそできる活動時間を増やしていく。
2	事業所の手作り教材が少ない。	個別療育に使用する教材は、日々のアセスメントから追加しているが、一人一人のお子さまの特性や好みに合った手作り教材が不足している。	スタッフ間でのお子さまのアセスメントと支援方法の情報共有を行い、お子さまに合わせた支援教材の作成を進める。
3	複数人の児童を一人に対応するスキル不足。児童の様子を見るためにどの場所に職員が居ないと見れないのかを考えるのが難しい。	集団療育の児童人数が少なく、複数人の児童を一人の指導員で見守る経験が不足している。また、職員の配置場所の共有不足。	意識的に少ない指導員で児童を見守る時間をつくる。また、時間ごとに職員配置の共有を行う。